

ブラジル
アマパ・イニシアティブ
現地からのお便り（2018年7月～2019年6月）

2019年8月
コンサベーション・インターナショナル

ブラジルにおける「“空気をはぐくむ森”プロジェクト」は、アマパ国有林とアマパ州有林という2つの保護地域の保全に貢献しています。活動を通じ、自然資本を守ることによって、人々の幸福にとって欠かすことができない環境サービスを提供しつつ、2つの保護地域の内部及びその周辺に住むコミュニティの生計を改善することを目指します。

今回のお便りでは、2018年7月から2019年6月までの活動をお届けします。

Serra do Navio 地区における木材管理

Serra do Navio 地区のコミュニティを対象とした木材管理事業は、昨年度から木材管理に係るライセンスの取得を1つの大きな目標として活動を進めてきました。ところが、この度アマパ州政府の組織編成が行われたため、新たな環境大臣の下でのライセンス発行に向けて再スタートを切ることとなりました。

非木材林産物の管理

これまで非木材林産物を原料としたバイオ化粧品の商品化に取り組んできましたが、その成果が徐々に形となってきています。中でもボムスセソ協会の製品は評判が高く、コミュニティ林業のビジネスモデルとして代表的な成功事例となっています。

こうした実績から、ボムスセソ協会は2018年8月にベレンで開催された第16回民族生物学会国際学術会議に招かれ、会議の場や展示場でバイオ化粧品の製品を紹介する機会がありました。

社会組織の強化

コミュニティベースのビジネスは、活動の主体となる社会組織の存在が成功の大きなカギを握っています。この社会組織が上手く機能していれば、活動の恩恵が地域社会へ様々な形で還元されていきます。そのため、当事業でもボムスセソ協会を対象として、ワークショップなど組織強化に向けた支援を行ってきました。

ボムスセソ協会はアラグアリ川のほとりにあるコミュニティ組織で、2017年にブラジル銀行とアマゾン基金が出資する Ecoforte Extrativismo から15万USドル（24ヶ月）の活動資金を獲得し、バイオ化粧品の開発と協会の組織強化に取り組んできました。そして、今ではコミュニティビジネスの成功事例と言われるまでに成長してきました。

しかし、現在協会では内部での対立が深刻化し、組織内部だけではなく地域社会へも影響が及ぶことが懸念されています。そのため、バイオ化粧品開発の中心メンバーは状況改善に向けて奔走しています。CI はこれまでボムスセソ協会の組織強化に取り組んで来ました。こうした社会組織が完全に自立するまでにはより時間をかけて見守っていくことが必要であると考えています。

考察

アマゾンでは、森林や生物多様性、生態系など保全事業において現地コミュニティの活動が重要な役割を果たしています。しかし一方で、コミュニティ主体の組織は様々な利害関係に巻き込まれやすく、内部での対立が活動に深刻な影響を与えるリスクも少なくありません。こうした社会組織が独り立ち出来るまでには時間がかかり、それまでの間外部からの技術的、資金的支援が必要とされています。

この1年間、計画通りモニタリングを続けてきましたが、こういった際に本来必要な現地での支援活動や介入は、資金の関係で実施することはできませんでした。

こうした背景の中、CI ブラジルでは、アマゾン地域での持続可能な開発に貢献するため、アマパ州における「気候変動対策のための森林：アマパ州における生態系サービスへの支払い（PES）と REDD+のための州制度」の活動を開始しました。

これまでのご支援により、アマパ州での活動は15年以上続けてくることができました。その過程で、現地政府とともに生態系サービスへの支払いや REDD+のための制度を州に構築する必要性を実感するようになりました。アマパ州はブラジルで最も広い範囲の森林が残されており、州の制度を整備することで持続的な開発を促進することが重要となります。

CI ブラジルは、これからも現地政府の育成や、持続的な生産体制の確立、生物多様性の保全など、現地の状況に適した方法を模索しながら、アマゾンの持続的な発展に向けて全力を尽くしていきたいと考えています。